

〔東京桑野会〕

東京桑野会公式

ホームページのご紹介

東京桑野会副幹事長・ホームページ委員長

芳賀雅美

(八十六期)

東京桑野会のホームページが立ち上げられたきっかけが何であったのかについては、昨年の当会報第37号で櫻井淳(78期)副会長が「つみれ屋」事件を暴露しましたので、ここでは省略します。この「つみれ屋」事件(平成14年5月24日)に先立つ同年3月に、ご本家安積桑野会公式ホームページが村田英男(75期)、内藤清吾(85期)の両氏のご尽力により開設されたのが、私にとっての直接的な行動の引き金となりました。

私は大学も就職後の勤務地も西の方が長かったため、東京桑野会とは遠ざかっていました。本社のある東京に転勤となり千葉県市川市に居を構えてから、連絡していた同級生の坂本浩一君(副幹事長86期)に東京桑野会総会への出席を熱心に誘われ、何度か総会に行くようになりました。最初は総会よりも理数科3期(昭和48

年卒)の同級生達に会うことが目的でした。あるとき総会の会計報告を聞き、三年間連続でホームページ開設準備金として30万円が計上されていたにも係わらず、決算時はゼロすなわち何も活動していない事実を知ったのです。そして

四度目の予算計上が承認され、また本家の公式ホームページに遅れてはならぬ気持ちで、その年の総会後のつみれ屋で偶然二階に上がってきた櫻井先輩の胸倉をつかみ「ホームページはやる気があるのか」と迫ったのです。百期以降の若手もその場において、異議なしとばかり酔った勢いで「東京桑野会ホームページ準備委員会」が発足しました。後年になって古川会長や斉藤幹事長から、若手の会員参加を増やす様々な努力の中で、ホームページ開設は悲願だったと告げられ、私の得意分野が少しでも会に役立てられたかと思うと苦勞した甲斐があったと思えました。前置きが長くなってしまいましたが開設前のエピソードはほどほどにして、たくさんのOB諸兄のご協力により、当ホームページは平成15年3月1日(土)正午にグランドオープンしました。会員からのご指摘により判明した初期作動不良を一ヶ月以内には修正し、ほぼ完成された形で運営を開始しました。それから四年半が経過しましたが、途中コンテンツの追加やデザ

インのリニューアルを経て、大きなトラブルもなく順調に稼動しています。

さて肝心の、当会公式ホームページの紹介をしたいと思えます。桑野会報で当ホームページの説明をする初めての機会ですので、少し技術的なことも踏まえて詳細を述べます。

まずは、「<http://www.tokyo-kuwano.com/>」にアクセスしてみましよう。なお途中の「www.」と最後の「」は省略して入力しても結構です。またグーグルやヤフーで「東京桑野会」と入力して検索すれば、一番最初に出ます。

まずは「オープニング頁」が開きます。ここに「安積の四季(スライドショー)」・「校歌/紫の旗ゆくところ」への入口ボタン、また掲示板への直行ボタンを設定しました。特筆すべきは、「校歌/紫の旗ゆくところ」のオリジナル録音です。学校の許可を受けた上で、当時現役の安高合唱部員にお願いし実現したのです。サイト内のどこかに録音時の写真が掲載されていますので、探してみてください。校歌は男声・女声の混声合唱になっていますが、録音直後は新鮮で何度も何度も準備委員一同で聞き涙が出るほど感動したものです。

オープニング頁をスキップすると、「トップメニュー頁」に移行しますが、この頁が当サイ

トの全てのメニュー画面となっています。画面1にトップメニュー頁を示しました。紫の生地に二本の白線、新旧徽章をデザインした安積共通ロゴを使用しています。ロゴの下にメインコンテンツへの入口ボタンを配しました。右端に縦並びでもサブコンテンツのボタンがあります。お好きなものを選んでお入り下さい。画面2は東京桑野会の頁です。古川会長の挨拶が掲示され、右端に縦並びで沿革や役員名簿、行事事計予算、過去の会報などを閲覧できる入口ボタンを配列しています。画面3は会からのお知らせからの連絡事項を掲示しています。これらの画面はほんの一例であり、当ウェブサイトはまだまだ奥深く頁が展開されています。ぜひぜひご覧いただきたいとお願い致します。

今となっては改めて当ウェブサイトを眺めると、割と見栄えもするし内容もそこそこ充実しており、世間並み以上のできばえになっていると思います。しかしながら「つまれ屋」事件での宣言以降、実際にホームページを立ち上げるには相当な努力が必要であったことは言うまでもありません。酒宴の席での勢いだけでは不可能でした。お目付け役の斉藤幹事長と櫻井副幹事長の下で、86期(2名)・91期(3名)・92期(以

下各期1名)・102期・106期・109期のメンバーで、何度となく会合を開催しました。当初はバラバラだった各メンバーの想いや出来上りのイメージを統一しつつ、シナリオの制作、コンテンツの創設、サイト構造の構築、頁遷移を順番に組み立てていきました。最優先事項であるコンテンツの創設では私個人としては全く考えも及ばなかった、①使い方の異なる複数の掲示板、②校歌と応援歌について在校生の合唱生歌を録音、③「安積の四季」と称する旧本館バルコニーのスライドショー、といった意外なアイデアが創出され、これは全部やろうということになりました。

さてホームページの設計図は確実に出来上がりつつありましたが、肝心かなめの「各頁の絵はどうするの?」「頁デザインは?」「ボタンのデザインは?」「ロゴマークは?」「使える写真はあるの?」……といったビジュアル面での制作は誰がやるのかという大きな壁にぶち当たったのです。予算30万円ではプロ業者への外注なんて不可能です。独自ドメイン登録やサーバホスティング料金も捻出しなければならず、結局は櫻井副幹事長の鶴の一声で「全て自分達でやり遂げよう」ということになったのです。このことが準備委員会メンバーの強い意思決定

となり、より一層の使命感が高まってきたのでした。

不安要素はたくさんあったにもかかわらず、最初に一般公開日を平成15年3月1日と決定しました。ここからの逆算で具体的な実行マスタースケジュールを作成し、やるべき項目をリストアップしていきました。ホームページ本番機サーバ設置と独自ドメイン取得のための登録申請を1月中旬に、掲示板CGIプログラムも完成させた最終プロトタイプを2月上旬にアップし、2月末までに検証・デバッグ。最後の1日で、芳賀ひとりによる最終プログラムチェックと公開時刻でのドメイン切り替え、すなわちグランドオープン作業というところまでの工程表でした。従って、年内には少なくとも動くプロトタイプが欲しいということになりました。手探り状態の中、11月7日の第四回委員会でシナリオとコンテンツが決まり、初回公開時のサイトマップを完成させました。引き続きページのビジュアル面での作成に入り、心臓部の会員親睦の頁を除いて、11月15日の夜には最初のプロトタイプを関係者に公開したのです。それなりに自信作でした。公開に当たっては、西田幸雄氏(91期)の個人所有であるヤフーBBサーバスペー

バとして各メンバーで共有化しました。

最初のプロトタイプが目に見えるようになる
と作業は一段と進みました。これをたたき台に
してより良いページ作りに全員で参加できたの
です。いちいち集まって委員会を開催しなくて
もよくなりました。本格的にプログラムが始まっ
たのは年明けでした。もちろん資料や写真の収
集とデジタル化、原稿のワープロ化、プログラ
ムの修正、作動確認といった裏方の細々とした
仕事も手分けし、メンバー皆昼間の本職の合間
を縫いながら全くのボランティアで黙々と作業
をしていったことがとても印象的でした。

なんとオンスケジュールで、2月8日には掲
示板CGIプログラムも含めた最終プロトタイ
プが完成しました。月末まで作動チェックとデ
バッグ、2月28日の夜間から3月1日の午前中
に本番機サーバへのアップと最終プログラムチェ
ックをひとり作業（複数メンバーで実施すると修
正を修正したり、重複作業でかえって間違いが
発生するため）を実施しました。もうこれで大
丈夫と思つて時計を見ると、まだ午前八時。
「まだ時間があるな」。でもここで寝てしま
うと正午を過ぎるかもしれない……と余裕が出
てきました。朝飯代わりのカップラーメンをす
すり、もういいやとばかり早々とドメイン切り

替えを午前八時半には実行してしまいました。
フライングですね。正規ドメインでの作動確認
後に準備委員会メンバー全員にメールで作業完
了を報告し、ベッドに入りました。予告よりも
3時間余り早いフライング「グランドオープン」
となりました。皆様ごめんなさい。

その後、コンテンツの追加（母校創立120周年
記念頁、安積OBクイズ、会員ブログなど）、
メインページのデザインリニューアル、本番機
サーバの更新（契約容量を、200MBから800MB
へ増量。新型機への交換。セキュリティ機能
の付加。）を実行し、現在公開5年目をトラブ
ルなく運営しています。

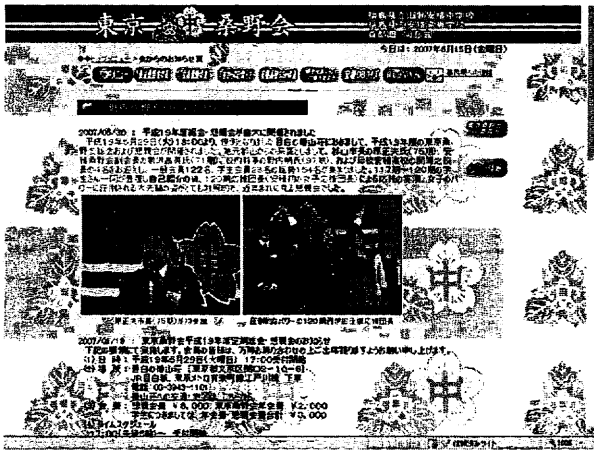
さて話は全く変わりますが、安積桑野会全体
のホームページ運営について思うところを述べ
てみます。現在運営を停止している本家安積桑
野会ホームページ、ご活躍中の香港・華南桑野
会ホームページ、孤軍奮闘中の関西桑野会ホー
ムページ、さらには一旦登場したのに閉鎖され
ました仙台安積桑野会ホームページ、あるいは
今後開設を目指している各地区桑野会のホーム
ページにつままして、それぞれが独自に開設し
運営をしている状態です。統一性のある運営方
針を立てた上で、これらを一元管理できるシス
テムを構築すべきではないかと考えます。独自

ドメイン管理につきましても、それぞれが勝手
に登録したり、個人所有（あるいは企業所有）
のドメインを利用したりではなく、桑野会の所
有・管理として取得方法・ドメイン名称の統一
化を図ることが必要だと感じています。現在本
家で利用している「saka-kuwano.jp」ドメイン
が、安積桑野会での登録取得でないことを皆さ
んご存知でしょうか。さらに進んでホームペー
ジ上にバナー広告を掲載し、その広告収入によつ
て運営することも考えています。会員OBの皆
様が経営されている会社や事務所を紹介し、ポ
タンひとつでそれぞれの会社のホームページへ
リンクさせるのです。低料金でも十分運営費用
を捻出できると思います。協賛広告募集の際に
は、ぜひご協力をお願いします。

インターネットは、世界に扉を開けています。
回線さえつながれば、24時間365日、世界中にわ
れわれのホームページは届くのです。優秀な検
索エンジンもたくさん開発され、欲しい情報が
一瞬にして入手できる世の中、これを利用しな
い手はありません。安積高校の情報をリアルタ
イムに発信し、またOBの情報もしっかり。ぜひ
皆様には掲示板をもっとご利用頂き、情報の発
信源となつて下さい。よろしくお願ひします。
現在の訪問者数は一日あたり約170人（平成19年

2Q平均)くらいです。平成19年6月23日に訪問者累積人数が七万人に達しました。この会報が発行される9月中旬には、八万人を越えていると推定されます。念のために書き添えておきます。

東京桑野会事務局およびホームページ委員会一同、今後もより良い内容での当会ウェブサイトに充実化を図っていきます。また当委員会に参加し、ホームページ制作を実施したい会員の方がいらっしゃいましたら、ぜひメールでもご連絡をお願いします。一緒に楽しい頁作りをしましょう。待っています。



〔関西桑野会〕

関西桑野会総会報告

関西桑野会事務局長

小玉 裕二郎

(六十八期)

去る六月二十三日(土)例年の総会を開催しましたのでその状況をご報告します。

本部からは、山口孝夫副会長、関校長と滝田直人校内幹事の三名と、恒例の関西花かつみ会(安女同窓会)から、石灰那加子、岡本公美氏が来賓として出席され、会員二十一名と併せ二十六名で、大阪梅田駅に近い大阪弥生会館「愛宕の間」で行われました。

総会は、赤間幹事の司会のもと鈴木会長、山口副会長、関校長の挨拶から始まり、小玉幹事から平成十八年度の会務報告、平成十九年度の事業計画、予算案の説明があり、満場一致で承認されました。

懇親会は、君島幹事の司会により八木副会長の乾杯で始まり自由懇談が行われた。途中、滝田校内幹事からは校内の近状報告が行われ、甲